

◆施策及び事務事業における、総合評価点の基準について

施策における総合評価点(A～D)、事務事業における総合評価点(A～D)については、以下の基準に基づき、各評価者により判定しています。

【施策評価について】

◆施策の総合評価の基本的な考え方

施策の総合評価欄には、施策の成果指標の達成度及び「施策の展開方針」に対する実績をもとに、評価結果をA～Dで表示しています。また、評価の詳細内容については、指標の達成状況の分析や基本方針に沿った展開が図れたか、今後の施策の抱える課題や方向性について、記述しています。

以下に、評価の基準についてお示しします。

<p>施策の総合評価</p>	<p>※施策成果指標の達成度でまずは判断したうえで、「施策の展開方針」に対する実績を加味し、総合評価を確定しています。</p> <p>A:「めざす暮らしの姿の実現を測定するための指標」計画値を達成した。施策の展開方針に沿った展開が図れた。 B:「めざす暮らしの姿の実現を測定するための指標」計画値を概ね達成(8割程度を目安に)でき、施策の展開方針に沿った展開が図れた。 C:「めざす暮らしの姿の実現を測定するための指標」計画値を概ね達成(8割程度を目安に)できたが、施策の展開方針に沿った展開が図れなかった。 D:「めざす暮らしの姿の実現を測定するための指標」計画値をほとんど達成できなかった。</p>
<p>指標の達成状況の分析、 施策の展開方針に対する実績、 今後の課題・方向性</p>	<p>総合評価の補足説明として、指標の達成状況の分析、施策の展開方針に対する実績、今後の課題・方向性等を記載します。</p>

【事務事業評価について】

◆事務事業評価の基本的な考え方

施策を構成する各事務事業の事後評価欄には、事務事業の総合評価結果をA～Dで表示しています。総合評価ランクについては、「妥当性評価」・「有効性評価」・「効率性評価」・「参画と協働のまちづくり推進度評価」の4つの観点における評価をもとに、下記のとおり、加点方式で算出しています。

【総合評価の算出方法について】

点数配分による手法と論理による場合分けを行う手法を組み合わせ、算出します。

・総合評価算出式(※ただし、妥当性評価A～Dを総合評価の上限とします。)

$\text{有効性評価配分点数 } 60 \text{ 点} \times \text{評価係数 } A \sim D(1 \sim 0.4) + \text{効率性評価配分点数 } 10 \text{ 点} \times \text{評価係数 } A \sim D(1 \sim 0.4) + \text{参画と協働のまちづくり推進度評価配分点数 } 30 \text{ 点} \times \text{評価係数 } A \sim D(1 \sim 0.4) = \text{総合評価 } A \sim D(\text{総合評価点は } 100 \text{ 点満点で計算})$

・総合評価の基準

A:80点以上 B:70点以上80点未満 C:60点以上70点未満 D:60点未満

※妥当性評価の論理(妥当性評価は、算出式とは別の方法で総合評価に組み込んでいます。)

妥当性評価については、事務事業の必要性や市の関与の妥当性を評価しているため、この評価結果が上限となるようにしています。

なお、事務事業評価の各観点(「妥当性評価」・「有効性評価」・「効率性評価」・「参画と協働のまちづくり推進度評価」)については、以下の基準で評価を実施しています。

<p>評価点</p>	<p>事務事業実施内容を振り返り、評価観点を参考に評価しています。</p> <p>【妥当性評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民ニーズ等を考慮して、事務事業の実施は妥当であったか。 ・市の関与や役割分担を見直す必要はないか。 <p>A:市民ニーズを考慮して、事業実施は妥当であった。 市の関与や役割分担を見直す必要はない。 B:市民ニーズを考慮して、事業実施は概ね妥当であった。 市の関与や役割分担を見直す必要はほとんどない。 C:市民ニーズを考慮して、事業実施はあまり妥当ではなかった。 市の関与や役割分担を見直す余地がある。 D:市民ニーズを考慮して、事業実施は妥当ではなかった。 市の関与や役割分担を見直す必要がある。</p>
	<p>【有効性評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めざす暮らしの姿を実現するうえで、有効な事務事業であったか。 ・指標の目標どおりの実績が達成されたか。実績値の伸びはあったか。目標(予測)に実績値が近づいているか。 <p>A:指標計画値を達成した。 施策の「めざす暮らしの姿」を実現するうえで、有効な実績をあげた。 B:指標計画値を概ね達成した。(8割程度を目安に) 施策の「めざす暮らしの姿」を実現するうえで、概ね有効な実績をあげた。 C:指標計画値は、あまり達成できなかった。(6割程度の達成を目安に) 施策の「めざす暮らしの姿」を実現するうえで、あまり有効ではなかった。 D:指標計画値は、全く達成できなかった。 施策の「めざす暮らしの姿」を実現するうえで、有効ではなかった。</p>
	<p>【効率性評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コストは節減できたか。 ・フルコストにおける受益者負担(補助)割合は適正か。 ・実施の手法は最適か。 ・業務の執行体制は効率的か。 ・同種・同類の事務事業を行っていないか。 <p>A:有効性を落とさずにコスト節減ができ、効率的な事業実施ができた。 B:有効性は若干落ちたものの、コスト節減は実現できた。 C:前年度並みの効率性を維持した。 D:効率性が、前年度の事業実施に比して落ちてしまった。</p>
	<p>【参画と協働のまちづくり推進度評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八尾市市民参画と協働のまちづくり基本条例の趣旨に基づき、市民との協働の取り組みを進められたか。 ・地域分権の推進に寄与したか。 ・情報公開を進め、透明性を高められたか。 <p>A:取り組みを進められた。透明性を高められた。 B:概ね取り組みを進められた。透明性を一定程度高められた。 C:あまり取り組みを進められなかった。あまり透明性を高められなかった。 D:取り組みを進められなかった。透明性を高められなかった。</p>